

2025年度（令和7年度）第1回福山市入札監視委員会会議概要

1 会議名

2025年度（令和7年度）第1回福山市入札監視委員会

2 開催日時・場所

2025年（令和7年）5月28日（水）13時00分～14時00分
福山市役所本庁舎3階 中会議室

3 出席者

委 員	梅國委員長、堂前委員、倉田委員、掛谷委員、佐藤委員（計5名）
関係局部課長	（市長部局） 建設局長、建設管理部長、農林土木担当部長、建築部長、建設政策課契約担当課長、建設政策課長、技術検査課長、沼隈建設産業課長、営繕課長、環境施設課長
	（上下水道局） 工務部長、施設部長、管財契約課長、施設整備課長、施設整備課雨水対策担当課長

4 会議の概要

(1) 委員長の互選について

委員の互選により、梅國委員を委員長に決定した。

(2) 委員長職務代理者の指名について

委員長の指名により、堂前委員を委員長職務代理者に決定した。

(3) 委員会の運営について

年に2回委員会を開催し、案件を抽出する担当委員が、事前に審議する案件を抽出し、委員会当日、該当案件について審議することを確認した。

また、審議案件の抽出について、次回の抽出を堂前委員、以降続いて倉田委員、掛谷委員の順に担当することを確認した。

(4) 抽出案件の審議

抽出案件の審議に際し、2024年度（令和6年度）3月末までの契約状況について、建設政策課契約担当課長から次のとおり説明を行った。

「2024年度（令和6年度）の福山市発注分の入札件数は704件で、落札率は90.26%、上下水道局発注分の入札件数は207件で、落札率は89.45%であり、

前年度と比較して、福山市発注分の落札率が0.73ポイント低下し、上下水道局発注分の落札率が1.32ポイント低下している。落札率の低下の要因としては、予定価格が1億円を超える大型案件の落札率が低下したことによるものであると考えられる。」

続いて、2024年（令和6年）10月1日から2025年（令和7年）3月31日までの間に開札を行った工事を対象に、担当の委員が事前に抽出した案件（①～⑤）について審議を行った。

- ① 排水施設機械設備工事（沖新涯排水機）
- ② 福山市箕沖球場便所改築工事
- ③ 内海し尿処理場トラックスケール改修工事
- ④ 松永ポンプ場ポンプ増設工事（ポンプ設備工事）【総合評価方式】
- ⑤ 箕島浄水場場内配管布設工事【総合評価方式】

○ 抽出案件の審議内容

抽出されたそれぞれの案件について、まず案件の抽出を担当した委員が選定理由を説明した後、関係職員がそれぞれ工事の概要・入札状況について説明し、各委員からの質疑に対する回答を行った。

抽出案件に対する主な質疑応答は次のとおりである。

抽出案件① 排水施設機械設備工事（沖新涯排水機）	
Q 1	① 入札参加者が、2者のみとなった理由 ② 入札資格者が何者程度あり、その内何者程度の入札を想定していたか。
A 1	本工事は、沖新涯排水機場に設置してあるポンプ設備の老朽化に伴う更新工事である。 本工事の入札参加者が2者のみとなった理由については、あくまで想定にはなるが、入札参加者が自社の工事の受注状況や技術者の他工事への配置状況等を総合的に判断した結果であると考えられる。 入札参加資格要件については、機械器具設置工事の入札参加資格を有する者のうち、広島県内に本店、支店又はこれに準ずるものを有する者としている。また、ポンプ設備の更新工事は、適切な工程管理と品質の確保により確実な施工が必要な工事であることから、排水機場（雨水ポンプ場を含む。）の排水ポンプを元請として設置した施工実績があることを入札参加資格要件としている。 この入札参加資格要件を満たす業者は、少なくとも36者程度を把握しており、同程度の入札を想定していた。
Q 2	約36者が応札可能であったが、結果的に入札参加者が2者となったのは一般的なことか。入札参加者数としては少ないと思われるが。

A 2	業者により自社の工事の受注状況や技術者の他工事への配置状況等が異なるので、結果 2 者となったと考えられる。入札参加者数としては少ないと思う。
Q 3	入札参加資格の営業所等の所在地の条件について、「福山市内に本店を有する者」ではなく、「広島県内に本店、支店又はこれに準ずるものを有する者」としているのは、予定価格により変えているのか。
A 3	予定価格や工事規模にもよるが、本案件については、「福山市内に本店を有する者」に限ると入札参加者が少ないと想定されたため、「広島県内に本店、支店又はこれに準ずるものを有する者」とした。
抽出案件② 福山市箕沖球場便所改築工事	
Q 4	① 入札参加 16 者中 15 者が失格となり、1 者しか残らなかった理由 ② 落札率が 99.9%と極めて高い理由
A 4	本工事は、本市が管理する福山市箕沖球場の便所の洋式化及び老朽化のために建替えを行ったものであり、工事内容については、既設の和式便所を撤去し、同規模の洋式便所を新設したものである。 入札者 16 者中 15 者が失格となった理由としては、本市では、「福山市建設工事最低制限価格事務取扱要領」に基づき、市が積算した工事費を基に、工種ごとに最低制限価格の基準価格を算定している。 最低制限価格は、開札時に、この基準価格を基に案件ごとに 0～0.3%未満の範囲内で任意に電子計算機が算出した額を加えたものを最低制限価格として設定し、入札を実施している。 本工事においては、まず入札者 16 者中 6 者が最低制限価格を算定する基となる「基準価格」を下回る価格での入札であったことから失格となり、さらに電子計算機による自動調整の影響から 9 者が失格となったことから、残る 1 者のみが有効な入札となったものである。 落札率が 99.9%と極めて高かった理由については、入札者 16 者中 15 者が最低制限価格を下回ったため失格となり、最低制限価格以上の有効な入札の 1 者が予定価格付近であったため、落札率が高くなったものである。
Q 5	「基準価格」を基に案件ごとに 0～0.3%未満の範囲内で任意に電子計算機が何%上乗せしたかということは公開しているか。
A 5	公開していない。

Q 6	本案件のように、1 者が落札し、それ以外が全て最低制限価格を下回った案件は頻繁に発生しているか。
A 6	2024 年度（令和 6 年度）に、市発注工事で同様の事例が発生した案件は 704 件中 15 件であり、約 2.1% である。頻繁には発生していない。
Q 7	予定価格を事前に公表しているにも関わらず、入札者 16 者中 6 者が最低制限価格を算定する基となる基準価格を下回る価格での入札があった状況はなぜ起こるのか。
A 7	予定価格は事前公表としている。基準価格の算定方法については、「福山市建設工事最低制限価格事務取扱要領」より公表しているが、基準価格そのものは事前公表していないので、これを下回る価格での入札があったと考える。
Q 8	0～0.3%未満の範囲内で任意に電子計算機が算出した額が上乗せした結果、入札者 16 者中 15 者が最低制限価格を下回ったため失格となり、最低制限価格以上の有効な入札の 1 者が予定価格付近で落札した状況はどう思われるか。
A 8	あくまで想定にはなるが、工事の難易度等をみて多数の入札者が基準価格付近に集中した結果と考えられる。

抽出案件③ 内海し尿処理場トラックスケール改修工事

Q 9	① 随意契約とした具体的な理由。条件によっては、他者でも可能な改修工事であるのか。 ② オーバーホールの具体的な対象と内容
A 9	本工事は、内海し尿処理場における施設管理を目的とする改修工事で、深品クリーンセンターで使用していたトラックスケールを再利用することにより、工事費の削減を図るものである。 施工に当たっては、設備をオーバーホールした上での再利用となることから、当該設備及び周辺機器に精通した者に施工させる必要がある。 当該業者は、当該設備の設計・製作・施工を行ったもので、専用部品の調達が可能で、改修工事に要する専門知識及び特殊技術を有している。 また、当該設備のメンテナンスにも携わり、正常な機能を確保し、安全かつ的確な施工ができることから、当該業者と随意契約したものである。 当該設備を再利用するため、設計・製作・施工を行ったメーカーでなければ、安全かつ的確な施工が困難であり、他者による改修工事はできない。

	オーバーホールの対象は、既存の深品クリーンセンターのトラックスケールの載台や支柱である。内容については、錆等を除去した後に防錆塗装を行い、移設したものである。
Q 1 0	オーバーホールして他に転用したものはあるのか。
A 1 0	トラックスケールを載せる台下のロードセルを再利用している。
Q 1 1	重さを測る上で、劣化した部分については錆を落とし、トラックスケールを載せる台下のロードセルについては再利用したのか。
A 1 1	そのとおり。
Q 1 2	トラックスケールなど特殊な機器の改修工事等は、今後も随意契約で発注していくのか。
A 1 2	内海し尿処理場のトラックスケールで計量する重量は、料金や手数料に反映するものでなく、維持管理上必要な重量のみを求めている。しかし、燃やせるごみのトラックスケールについて、事業所から出るごみなどは、処理料金を徴収している関係で、計量法に基づく証明書が必要であり、市内業者で検査・証明できるものは当該業者しかいない。燃やせるごみのトラックスケールのメンテナンスについては、市内業者にしてもらいたいと考えている。
Q 1 3	ごみ処理場及びし尿処理場のトラックスケールについては、全て当該業者に発注するのか。
A 1 3	し尿処理場のトラックスケールについては、証明書が必要ではないので、別の業者もいる。本件においては、深品クリーンセンターは燃やせるごみの処理施設であり、トラックスケールについては当該業者で設計・施工していた。そのため、転用が効くことが速やかに確認できたので、経費節減という観点で当該業者に発注した。
Q 1 4	見積り回数が2回というのは、一般的なことか。
A 1 4	1回目の見積りについては、市が設定した予定価格を超えたため、再度の見積りとなった。手続については問題ない考える。

抽出案件④ 松永ポンプ場ポンプ増設工事（ポンプ設備工事）【総合評価方式】	
Q 1 5	① 入札参加者が少ない理由 ② 総合評価方式の入札資格者が何者程度あり、その内何者程度の入札を想定していたか。
A 1 5	本工事は、松永町にある既設の松永ポンプ場の西側を流れる安毛川へ新たに口径 9 0 0 mm の水中ポンプ 2 台及び自動除塵機 2 基を設置する工事である。 入札参加資格要件については、工事の規模が大きく、難易度が高いため、総合評価方式による共同企業体での入札とし、要件として一定以上の吐出量のポンプを自ら製作し、設置した施工実績があることとしている。 この入札参加資格要件を満たす業者は、少なくとも 7 者程度を把握しており、同程度の入札を想定していた。 入札参加者が少ない理由については、あくまで想定にはなるが、工事期間が 2 か年度にまたがることなどの条件のほか、各社が自社の工事の受注状況や技術者の他工事への配置状況等を総合的に判断した結果であると考えている。
抽出案件⑤ 箕島浄水場場内配管布設工事【総合評価方式】	
Q 1 6	① 入札参加者が少ない理由 ② 落札率が 9 9 % と高い理由。この工事では過去も含め、いくつかの案件で 9 9 % 超の落札率は想定範囲内か。また、同様の特殊な工事である場合、他の工事でも今回落札した業者が落札するようになるのか。
A 1 6	本工事は、箕島浄水場で浄水処理した水を送水ポンプから工業用水道の使用者へ送水するための既設管が老朽化しているため、布設替えを行うものである。 入札参加資格要件については、工事の規模が大きく、難易度が高いため、総合評価方式による共同企業体での入札とし、要件として口径 9 0 0 mm 以上の鋼管の布設工事の施工実績があることとしている。 この入札参加資格要件を満たす業者は、少なくとも 1 0 者程度を把握しており、同程度の入札を想定していた。 入札参加者が少ない理由については、あくまで想定にはなるが、本工事は耐震性に優れた長寿命形水道用塗覆装鋼管への布設替え作業を稼働中の施設で行う必要があることから、高い技術力を必要とする工事であることと併せて、各社が自社の工事の受注状況や技術者の他工事への配置状況等を総合的に判断した結果であると考えている。落札率が高い理由については、先述のとおり、本工事は高い技術力を必要とする工事であるため、工事費の削減が難しいと判断したものと考えている。

	また、99%超の落札率については、入札参加者が設計書等を基に積算した見積額を予定価格の制限の範囲内で入札した結果であると考えている。 なお、今回の落札業者が同様の工事を落札するののかについては、入札参加資格要件を満たす業者は少なくとも10者程度を把握しており、落札するかは入札した結果によるものと考えている。 以上
--	---

○ まとめ

抽出案件について、委員会から付された意見はなかった。

(5) 入札及び契約手続の運用状況についての報告

・ 指名除外措置運用状況について

2024年（令和6年）10月1日から2025年（令和7年）3月31日の間に指名除外措置をした3事案5者の状況について、建設政策課契約担当課長が報告した。

(6) その他

・ 次回委員会の開催時期について

2025年（令和7年）11月下旬の予定

・ 次回の審議で対象とする工事案件の抽出について

2025年（令和7年）4月から同年9月までを対象とし、堂前委員が担当する。